IEEJ: 2008 年 8 月掲載

サマリー

アジアを中心とした世界石油製品需給分析

計量分析ユニット　研究主幹　平井 晴己
研究員　松尾 雄司
研究員　宇野 宏
研究員　永富 悠

インド、中国を中心としたアジア地域の旺盛な石油製品の需要増加を背景として、精製能力増強や品質規制の強化により、2010 年、2015 年における世界各地域の需給バランスや貿易フローがどう変化するかを、LP モデルを使用して定量的な評価を行った。原油価格については、昨今の 100 ドルを越える高価格が終息し、ファンダメンタルズを反映した水準に戻る場合(基準ケース)と、このまま高止まりする場合（高価格ケース）について検討を行ったが、基準ケースの場合を概略すると以下の通りである。

（基準ケース：日本を中心として見た場合）

１．日本の精製余剰能力と輸出動向世界の石油需要の堅調な伸びにより需給環境がタイト化することから、高品質な製品（超低硫黄など）の輸出拡大が進み、精製能力の余剰（約 480 万 B/D のうち、ガソリン・中間換算で 16%）は大幅に縮小する。

２．　主要な輸出市場ジェット燃料、軽油等の中間留分は中国、アセアン、豪州など、ガソリンは米国西岸、豪州地域を中心に輸出される。

３．輸出市場の競合欧州・アフリカ市場への輸出を中心とする「南アジア・中東地域」の製油所と、太平洋地域への輸出を中心とする「東アジア(中国を除く)」の製油所間では、豪州市場を除き競合の可能性は少ない。しかし、日本、韓国、台湾においては、国内市場の低迷、高品質の製品生産が可能ということもあり、輸出先の重複が生じて競争が高まる可能性が高い。

お問合せ: report@tky.ieej.or.jp